

第2回海外姉妹都市提携検討市民会議(27.11.25開催)

■今までの海外交流実績について

行政、稲城国際交流の会、東京稲城ロータリークラブ、国際ソロプチミスト稲城、稲城青年会議所から今までの海外交流実績について報告し、意見交換を行った。

(主な意見及び回答)

- ①中国の稲城県との交流は切れてしまっているのか。
→親書について返事はしたが今は待ってください、対応できるようになったらということである。
- ②今までの交流実績から、姉妹都市を結ぶ必要がないと感じるのか、姉妹都市を結び行きやすい環境を整えたほうが良いと考えるのか。
→・環境を作れるのであれば作ってあげたほうが良い。
・将来的には組織体制、経済面について課題はあるが、海外姉妹都市は、賛成である。
・稲城国際交流の会の目標の一つに姉妹都市を結ぶということはある。
姉妹都市を結んで何をするのかということが問題であり、国によっても姉妹都市のやり方が違う。
- ③今までの海外交流実績を聞いていた中で、あえて海外姉妹都市を結ばなくてもこの団体に補助などを出し推進してもらうことで良いと感じた。

- ④姉妹都市は別として、国際交流の必要性は感じた。また、姉妹都市となると、組織として行うことになる。相手は別として、そういう時期にもきていると思った。
- ⑤姉妹都市として、子どもを海外に送り出したり、受け入れることは賛成である。ただし、金銭的な補助を含めて考えることが必要である。
- ⑥グローバルな視点を持った子どもの育成という点では相違はない。ただし、今まで、交流実績のないフォスターシティ市と姉妹都市を結びましたという時に、すぐに子どもを行かせるかということ、私が親であれば行かせない。ただし、交流をしていくことは賛成ではあるが、姉妹都市になったからすぐ子どもを行かせるというのは現実的におかしい話である。
- ⑦姉妹都市を結ぶことで選択肢は増えると思う。相手は別として姉妹都市は賛成である。
- ⑧どこの都市と姉妹都市を結ぶということは、きっかけ論はいろいろあると思う。ただし、自治体は、市をあげて、どういう形態の交流ができるのかということを組み立てることが、一番肝心な所である気がする。
- ⑨団体で行う交換留学やイベントは、姉妹都市とは別物であると感じる。何らかのきっかけで、稲城市との繋がりができ安心していけるような道しるべをつくるのが、ここにいる皆さんであると思う。
- ⑩1か月の留学で、行く前と帰ってきてから、すごく子どもたちは変わる。そういう面では、早くからそういう経験をさせてあげたい。
- ⑪姉妹都市になれば、小さい子からお年寄りまでみんなが交流できる。

■海外姉妹都市提携の在り方について

資料を参考に、海外姉妹都市とはどういうものか、交流する意味などについて意見交換を行った。

(主な意見)

- ①いろいろな方の意見を聞いたところ、フォスターシティ市はどこなのか、海外交流はよいが、なぜ、市民代表者がすぐに視察に行かなければならなかったのか。海外都市と交流していくことは良いが、すぐに姉妹都市を提携して、それありきで何かをすすめることは、市民感情的に賛成できない。あやふやな予算を付け何のためにやるのかもわからないという意見が市民から出ている。予算を付けるのなら市民代表者の会議の視察予算を付けるのではなく、留学意欲のある学生さんや子どもなどに付けるべきであるという否定的な意見が多くあった。
- ②茶道、華道、書道、陶芸で交流ができれば、より有意義な姉妹都市を結べるのではないか。我々の文化を向こうに伝えることは十分できると思う。
- ③交換留学生と姉妹都市は全く別物であると思う。

④グローバル社会の中で、国際社会に出ていかなければいけない時代で、青少年がもっと、海外に飛び出す機会を作れたら良いと思う。また、きっかけは、いろいろあるという話があったが、今回のことをきっかけに進めることでこの会合も進んでいくと思う。

(行政より)

「海外姉妹都市提携の交流の在り方について」は、次回の議題にも絡むことから次回もご意見をいただきながら進める。また、どこの都市とかではなく、海外との交流を進めるのであれば、どんなことができるのかというご議論をいただきたい。